

3 フードテック基盤技術確立プロジェクト

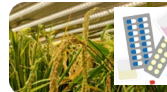
令和9年度予算概算要求額 2,000百万円（前年度－）

＜対策のポイント＞

日本成長戦略の戦略分野の1つ「フードテック」に位置づけられている植物工場、食品機械及び新規食品について、国内外市場を新たに獲得し、我が国の稼ぎの柱の1つとするため必要な基盤技術の研究開発を国主導で推進します。

＜事業目標＞

- 日本品質の農産物及び植物工場プラントと運営ノウハウを併せた植物工場システムをパッケージ展開し国内外市場のシェア3割獲得〔令和22年度まで〕
- 食品機械及び新規食品の海外展開を更に進め、国内外市場の売上を、それぞれ3兆円獲得〔令和22年度まで〕

＜事業の内容＞	＜事業イメージ＞
「官民投資ロードマップ」の勝ち筋の実現のため、課題解決に向けて必要な技術の研究開発を国主導で推進します。 1. 植物工場 1,800百万円（前年度－） AI等を活用した次世代型の植物工場モデル、多品目生産技術、植物工場用品種、植物工場における有用物質（医薬品原料等）等の安定量産化技術等を開発するほか、幅広い現場への活用にも資するデータプラットフォームの整備、研究成果等の普及や人材育成、標準化等の推進等を行います。 2. 食品機械 100百万円（前年度－） 品目ごとの品質維持に最適な処理技術の開発とその体系化や海外展開に向けた開発等を行います。 3. 新規食品 100百万円（前年度－） 品質と美味しさを両立する精密発酵技術等の確立や海外展開に向けた開発等を行います。	1. 植物工場  【研究内容】 AI等を活用した次世代型の植物工場モデルの開発 等 【期待される効果】 植物工場のランニングコスト低減、高収益化  【研究内容】 果菜類等の多品目生産技術の開発、国内外における植物工場産植物工場用新品種の開発 等 【期待される効果】 農産物の市場規模拡大  【研究内容】 医薬品原料（サイトカイン高蓄積米等）等の安定量産化技術の開発 等の創出、市場拡大 【期待される効果】 植物工場を活用した新規ビジネス 2. 食品機械  【研究内容】 食品原材料処理技術（ブランチング、冷蔵、冷凍、解凍等）の開発とその体系化、海外展開のための国際標準化に向けた研究 等 【期待される効果】 冷凍食品等の加工食品の品質安定化と高付加価値化、国産加工食品の競争力向上 3. 新規食品  【研究内容】 精密発酵技術の確立、食品開発に必要な特性評価手法の開発、海外展開のための国際標準化に向けた研究 等 【期待される効果】 発酵食品の品質向上、新たな食品・素材市場の創出

＜事業の流れ＞

国

委託

民間団体
(公設試、大学を含む)

【お問い合わせ先】

(1の事業)

農林水産技術会議事務局研究開発官
(基礎・基盤、環境) 室

(03-3502-0536)

(2,3の事業)

農林水産技術会議事務局研究統括官
(生産技術) 室

(03-3502-2549)